

播種から収穫までの管理要点

1. 播 種

発芽温度は30～32℃とし発芽まで一定の温度を保つ。(過剰水分注意)

発芽後は、徐々に気温・地温を下げ徒長防止に努める。

2. 移 植

ポットの大きさは10cm以上のものを使用し水分を適度に与え、十分に温度を上げて(25～27℃)おき、播種箱より2～3℃高めにする。

3. 接 木 必ず接木する。

4. 育苗管理

- ① 育苗中は、水分・温度に注意し極端な環境変化は黒星病・つる枯病等の病気の発生をまねくので注意する。
- ② 後半は、必ず苗ズラシを行い、健苗育成に努め定植はキング播種後30日を目途とする。

育苗計画

所有株数	播種粒数	播 種 床		育 苗 床	
		播種後	面 積	最終鉢間隔	面 積
株	粒	条間 cm	m ²	cm	m ²
450	550	6～8	0.6	12×18	10.7
650	780	×	0.7		15.6
1,000	1,150	粒間	1.1	12cm鉢	24.0
1,500	1,750	2～1.5	1.6	使用時	36.0

育苗期日の温度管理

最低温度(保温または加温設定温度)-----最高温度

最低温度	発芽まで	発芽後	鉢上げ	活着後	以後	最高温度
気温 °C	—	18	20	18	16～14	28
地温 °C	30	24	25	20	18～16	25

5. 定 植

- ① 定植時の本畑は、地温18℃以上を目途とし晴天の午前中くらいまでに作業を終えるようにする。
- ② 活着を良くするために、本畑の地温は育苗床地温より高めに確保しておく。
- ③ 定植は浅植えとし、活着促進のため手水を考慮する。

6. 定植から着果期迄の管理

- ① 換気の開閉は適温を保つ様こまめに行い、茎葉の健全化を図ると共に太陽光を充分にあて同化作用を旺盛にする。

- ② 灌水は控えめとし、必要な場合は実際に土を掘り土壌水分を把握した上で行う。
- ③ 開花7日前より夜間温度は最低14℃以上確保し(適温18℃)、日中は最低22℃(適温25～30℃)とする。
- ④ 開花期は除湿に努め花粉ののりを良くする。
- ⑤ 着果節位は、定植後の初期生育～着果時期までの草勢・根勢を判断し、6節～12節の間位とする。
- ⑥ 最低温度確保を目的とする被覆は、株の老化と着果不良をまねくので注意する。
 - 1)曇天・降雨状況等の日照不足時は、日中長時間被覆状態にすることで益々光量不足になる。又、過剰湿度による花粉発生不良・徒長生育となり着果不良をまねくので、数時間でもトンネル・換気を開閉する。
 - 2)トンネル換気を閉めた後、一時的にでも35℃以上の高温状態の管理を毎日続けることにより、株の老化を著しく早めるので注意する。

7. 着果期から収穫迄の管理

- ① 着果後7日間は保温に努め、夜間は14℃以上(適温18℃)・日中は最低22℃以上(適温25℃～30℃)に保温する。
- ② 摘果は、草勢を見ながら遅くともソフトボール大までに行う。
- ③ 着果後7～14日迄の間(最高果実肥大期)は、生育温度を多少低めにし、ネット発生期前の果実肥大・硬化調整期間とし水分は控えめとする。
- ④ 着果後20～30日の間(ネット発生期)は、果実硬化状態を把握したうえで気温をやや高め(最高上限32℃)とし灌水を多めとする。
- ⑤ 着果後30日以降(仕上期)は、温度管理に充分注意し果実内部の充実に努め、灌水は控えめとする。
- ⑥ ネット発生時期までにマット敷きを完了する。
- ⑦ 肉質の低下につながる極端な管理(温度・水)は行わない。
- ⑧ 芯摘みは草勢の旺盛なときに早めに行い、収穫2週間前より極端な芯摘みは行わない。
- ⑨ 収穫前に確認のために試し切りを行い、適期収穫・適正箱詰に努める。
- ⑩ 収穫は、早期収穫を原則とし、遅くとも午前中には箱詰めを終了する。

